

令和4年度
学校自己評価・学校関係者評価
報告書

古賀国際看護学院

1 学校の教育理念・教育目標

- (1) 豊かな人間性を育み、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重できる倫理性を養う。
 (2) 人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな存在統合的に理解し、看護師として人間関係を形成する能力を養う。
 (3) 専門知識・技術のもと人々の健康維持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和に向けた援助を提供する看護師としての責務を養う。
 (4) 対象を”生活する人”としてとらえ、看護過程を展開し、看護サービスを提供できる能力を養う。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

	令和4年度 重点目標	重点目標・計画の評価・課題・解決方策	学校関係者評価
1	安全で良好な学習環境の提供	・支援を行う学生の担当を明確化することで、継続的な学生支援ができた。 ・毎週一回、カウンセラーによるカウンセリングを行うことで学生のケアに資することができた。 ・国家試験対策として、専門講師の招聘、担当教師の配置等、きめ細かな対策に努めた。	・学生のメンタルケアをはじめ、学修の個別支援、組織的な支援等あらゆる角度から対策されており評価できる。
2	教育水準の向上と創意工夫のある教育の追及	・新カリキュラム運用に当たり、学生はもとより講師会や各種研究会での説明、周知徹底を図り、効果的な運用に努めた。 ・電子教科書の運用を開始し、いわゆるZ世代の学生の学修に適した環境を整備した。	・新カリキュラムについては、時間をかけて丁寧な運用を図っており、学生・講師にも理解しやすいものになっている。
3	臨地実習施設との連携を密にした指導体制の充実	・実習開始前には打ち合わせを、実習終了時にはまとめと評価を行い、情報共有に努めた。 ・今回のコロナ禍のような、実習が困難な状況での代替措置について研究・実践を行い、(オンライン等)あらゆる状況にも対応できる態勢構築に努力した。	・状況に応じた対応ができており、評価できる。ただ、実習先については学生や職員の負担減やより効果的な配置等について長期的に見なおしや改善が必要であると思われる。
4	広報活動の徹底と入学生の量・質の確保	・高校訪問の体制を整備し、全職員で目的や方法を共有しスキルを向上させることで、志願者増に結びつけることができた。 ・学生案内パンフレット作成やオープンキャンパス、学院説明会等、本部の力も借りることで充実した取り組みとすることができた。	・志願者増については見込み通りの結果が得られており評価できる。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・理念・目的・教育人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.6	設置母体である社会医療法人天神会の理念を踏まえ、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・デュプロマポリシーを明確化し、学生案内にも明記している。特に卒業時における期待される学生像(デュプロマポリシー)を全職員で共有し、常に意識しつつ人材育成に取り組むことが今後必要である。	・看護学校である以上、国家試験に合格させることが究極の目標であり、全職員同じベクトルのもと教育にあたっている。適正に評価されている。
・学校における職業教育の特色は何か	3.4	地域とともにある医療を目指し、天神会関連の病院・施設を有効に活用している。	・適正に評価されている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.5	コロナ禍以後、ますます重要性を増した医療・看護・福祉の分野で、地域に貢献する医療従事者を多数育成することである。	・適正に評価されている。
・理念・目的・教育人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	2.9	学院説明会、オープンキャンパス、高校説明会など参加型の催しでの説明はもちろん、HP、チラシ、学生案内等の媒体にも明記し周知している。保護者向けに教育理念をわかりやすく説明したものを配信するなど、今後も継続して有効な方策を考えていく。	・学生に対しては理念・目的等しっかり周知されているが、保護者に対する情報提供は今一つのところがあり、自己評価も低い数値となっている。
・各教科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.3	社会の変化、時代の趨勢に合わせ、特にデュプロマポリシーについて常に見直しPDCAサイクルを回している。	・常に見直しを行うことでPDCAサイクルを回しており、適正に評価されている。

①課題

- ・保護者向けに教育理念をわかりやすく説明したものを配信するとよい
- ・卒業時にどこまでを達成するのかを考えながら教育する必要がある

(2) 学校運営

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・目的に沿った運営方針が策定されているか	3.0	各セクション委員会等(カリキュラム委員会、臨地実習指導者会等)で審議した内容は全職員で行う教務会議、上位委員会である運営会議を経て、学院としての意思決定としている。学生で組織される学友会、卒業生組織である同窓会、学校関係者評価委員等の意見も取り入れながら学院としての方針を策定している。	・母体である天神会の理念を踏まえた運営方針を策定し、下位・少人数の委員会から上位・管理的立場にある委員会へ組織的に方針決定がなされている。
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3.3	例年法人の総会において学院の事業計画を公表している。総会前に、法人から次年度の方針(目指すべき目標)が提示される。学院はそれを受け、また前年度の評価を基に本年度の目標を設定している。	・適正に評価されている。
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.1	上記のように各セクションでの検討結果を月2回開催される教務会に上げることで審議・決定されている。重要事項については定期に開催される運営会議で審議・決定されている。まとめられた議事録は回覧される等有効に機能している。	・年度当初に年間の委員会の計画が明示される等、場当たり的ではなく見通しを持って意思決定がなされている。
・人事、給与に関する制度は整備されているか	3.1	法人の人事部門にて整備されている。法人の医療介護部門とは別に、学院就業規則、学院給与規定が定められている。人事考課制度を有し、個人面談、評価はフィードバックしている。	・適正に評価されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2.9	令和4年度は学院長の交代等一部組織に変化があったため、令和5年度に向けて新たな組織を構築している。	・適正に評価されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.8	地域社会に対するコンプライアンス体制は今後強化していく必要がある。在宅看護が中心となる社会に対応するため、地域との連携をいっそう高めていく。	・学院開校10周年を再来年に控え、もはや「新設校」とは呼べない時期に来ている。地域や業界に対して今一層の働きかけが必要である。
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.2	高等学校への学校訪問、オープンキャンパス、学院説明会、高校主催のガイダンスへの出席等、多くの機会を活用し、直接情報提供している。ホームページ、チラシ等の媒体でも情報提供に努めている。	・適正に評価されている。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.6	現在使用している教務システムに関して、使い勝手が良くないため次年度はシステムを変更する予定である。これにより業務の効率化が図られるものと思われる。	・令和5年度中に新システムが導入されることになっており、更なる業務の効率化が見込まれる。

①課題

- ・出席管理に時間がかかる
- ・地域社会に対するコンプライアンス体制は不十分。これからは在宅看護が中心となり、地域との連携が重要であることから、きちんと整備していく必要がある。
- ・本部などとの関係の明確化

(3)教育活動

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	3.4	新カリキュラム編成に際して、設置母体(社会医療法人天神会)の理念を基に設定した教育理念に「地域性」を加え、「教育目標」に、ICT、コミュニケーション能力、臨床判断を取入れた。	・母体である天神会との理念の共有化がよく図られており、天神会グループの一員として学院の役割を果たそうと考えられている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.5	各教科・講義は各学年の前期・後期ごとに配置されており、到達目標とともに学生便覧に明示している。詳細なシラバスを配布することで、学生自らが主体的に学修を進められるよう配慮している。	・詳細かつ丁寧なシラバスが提示されており、学生の学修に大いに役立っている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.6	新カリキュラム編成において各教科科目・講義を有機的に配置し、それぞれの関連や段階が一目でわかるよう体系図を作成した。	・新カリキュラムを契機としてよりわかりやすい編成がなされている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.3	学生自身のキャリア発達・形成についてグループ学習・発表、個人での思考・レポート提出等、様々な手法を試みている。	・適正に評価されている。
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.0	臨地実習を行う施設・機関や様々な分野の講師などから意見を聴取することにより、PDCAサイクルを回している。	・適正に評価されている。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3.0	実習を行う施設・機関について偏りなく多くの場所を選ぶとともに、隣地実習指導者会議等で学院への意見を聴取することにより見直しも行っている。	・実習先の選定については、前述(2-3)のように母体との関連も含め長期的に見直しを行っていただきたい。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3.2	授業評価は実施しているが回収率が高いとは言えず、その評価も基準があいまいであり、今後改善が必要である。	・自己評価の通り、改善に着手していただきたい。
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.8	意見を聴取することはあるが「評価」を取り入れているとは言い難く、そもそも学院の教育全般に関する外部関係者評価が確立していない。令和5年度からは教育の専門家を学院に迎え、評価に関する土台作りに着手する予定である。	・「外部関係者」以前に「学校関係者」による評価のシステムを確立していくことが必要と考える。
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.5	令和4年度に「学則」を見直すことにより、基準を明確化した。履修認定会議・卒業認定会議等で厳正に審議され、運営会議で決定するというシステムが確立している。学生便覧にも明示することで学生自らも見通しを持つことができるようにしている。	・適正に評価されている。
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.5	国家試験対策として各学年の学習支援担当教員や学年担任と連携して3年間を通して計画的に実施・支援を行っている。計画的な模擬試験の実施や、外部講師による特別講義など、効果的な指導に注力している。	・適正に評価されている。
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.1	厚労省とつながりのある講師を招いたり、年度途中から実習担当の専任教員を配置するなど努力している。	・適正に評価されている。
・関連分野における業務等との連携において優れた教員(本務・業務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2.7	天神会本部と連携しながら講師等の確保に努めているが、持続可能であるかという視点から見ると万全とは言い難い。場当たり的な方法ではなく組織として組み込む必要がある。	・自己評価の通り、「持続可能な」システム作りが望まれる。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.8	教員研修経験者は少数であるが、多忙や経費の面から取り組みは進んでいない。令和5年度に向けて、教育の専門家の配置が決定しており、職員の自発的な学習会の取り組みも計画されているところである。	・今ある人材・資源で工夫して資質向上を図ろうとする取り組みが自主的になされつつあり、今後が大いに期待される。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.7	上記の通り	

①課題

- ・成績評価については、領域の判断で行っている傾向があるため、各領域でルーブリック評価としてテスト評価も行う必要がある
- ・研修等に行けていない

(4)学修成果

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・就職率の向上が図られているか	3.4	設置母体への就職率は22名、37%と、昨年より低下した。しかし、進学を希望した学生を除いては、就職率は100%であり、就職先も学生が希望する施設への就職が可能であった。採用情報については適宜チラシ、ポスターなどで周知している。	・専門学校の使命と言っても過言ではない就職に関しては100%となっており、役目を果たしていると言える。あとは母体である天神会への就職率をどう考えるか、見当が必要である。
・資格取得率の向上が図られているか	3.3	国家試験合格者は一昨年度は100%であったが、昨年は6名不合格で89.8%であった。国家試験対応として、年度途中には専門の講師をお呼びして学生に講義をしていただいた。学習支援担当の教員が月一回程度の面談を行い、学生個々に具体的なサポートを行っている。	・結果としては満足できるものではなかったが、この結果をもとにすぐに改善に移ろうとする姿勢は評価できる。
・退学率の低減が図られているか	3.2	5回生入学者62名、退学者2名、退学率3% 6回生入学者59名、退学者1名、退学率2% 7回生入学者63名、退学者2名、退学率3% 8回生入学者67名 担任、学習支援担当、カウンセラーらが協力し合い、学生の支援に当たっている。	・適正に評価されている。
・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	2.5	設置母体に就職する学生については、折に触れ評価や意見聴取を行っており、在校生に関しては、ボランティアや学院祭、地域の行事などに学生を参加させることで地域での評価を高めている。	・評価を把握してはいるが、その評価をどう高めていくか具体的な方法について今後考えていただきたい。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校教育活動の改善に活用されているか	2.5	卒業後の学生の追跡に関してはなかなか手が回っていない状況である。	・自己評価のとおり、今後改善に向けて具体策を練っていただきたい。

①課題

・退学等については、その学生の特性を理解し、個別の対応を密に行っていく必要がある。

(5) 学生支援

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3	求人情報に関しては、県外も含め広く学生の目に触れるよう掲示するとともに、担任がきめ細かい面談を重ね、時には学年を超えてアドバイスを受けることができる体制を整えている。	・適正に評価されている。
・学生相談に関する体制は整備されているか	3.5	週に一度、カウンセラーによる相談を受け付けており、専任教員による定期的な面談も行っている。学習支援担当による支援も行っている。	・適正に評価されている。
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.1	天神会独自の奨学金制度をはじめ、各種奨学金を広く紹介している。また、校納金等についても、希望者には分割払いを可能としている。	・奨学金について、記入の仕方から手続きの方法、その後のケアまで非常に丁寧な指導が行われている。このような指導も「支援」の一環と考えることができ、より高い評価としても良いのではないかな。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.5	出欠管理(体調不良による)については、教務室内の大型ビジョンで常に確認できるようになっておりとともに、健康管理担当教員を置くことできめ細かい対応ができるようにしている。	・適正に評価されている。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.9	ボランティア活動については、学院が活動団体からの要請を受けて募集に応じる形や、学生自ら自主的に参加希望して活動する形等様々な形での実施である。	・「課外活動」には学友会による活動等も含めて考えることができると思われるが、学友会活動に関しては、担当職員がうまくサポートしながら自主自立的に活動が行われており評価できる。
・学生の生活環境への支援は行われているか	3.0	既に結婚して子供のいる学生等もあり、様々な環境で生活している学生がいる。個々の学生の生活環境を踏まえたうえで配慮できるところは配慮しながら指導に当たることができている。	・適正に評価されている。
・保護者と適切に連携しているか	3.1	学生はほぼ全てが成人であり、保護者会のような組織は有していない。成人として、また一部子供を有している学生に関しては、自分自身が「保護者」としてどのように振舞うべきかを考えさせている。	・学生は成人ではあるが、「学生」である以上、保護者との連携は欠かせない。保護者会のような組織は必要ないと思われるが、指導に当たっては保護者との連携は必要である。
・卒業生への支援体制はあるか	3.3	国家試験不合格者に対しては、現三年生とともに模擬試験や研修、受験手続など対策ができるようにしており、要望があれば学院の施設(実習室や図書室)も利用できるようにしている。	・卒業生にも国家試験対策を講じている点は素晴らしい。
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.0	社会人として経済的・時間的な制約がある中で十分な教育が受けられるよう、奨学金制度の充実や自主学習のしやすい環境等配慮している。、	・適正に評価されている。
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.7	高校や高等専修学校等との組織的な連携はまだできていないが、単発的なものとして、高校からの要請による出張講義等行っている。今後連携を強めていくことで一体的な学生の教育が可能となると同時に、本学院の志願者増も見込めるため、組織的に進めていく必要がある。	・高校や高等専修学校との連携はどのような形があるか、どのようなメリット・デメリットがあるか等まずは調査、企画を進めていただきたい。

①課題

・学生相談については、学修支援という形で行っているが、学修支援計画を綿密にしていく必要がある。

(6)教育環境

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.4	教育用具(モデル人形、医療・看護用品等)や設備(音響・映像等)など、ほぼ整備されている。グループワーク室や3つのラウンジも備え、学生同士がコミュニケーションを行いやすい環境になっている。また、校内のWi-Fi化も完了し、電子教科書の使用もできるようになった。	・素晴らしい施設・設備が整備されている。どんどん活用して教育効果を高めていただきたい。
・学内外の教育施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.6	就職に関するインターンシップへの参加は学生の自主性に任せているが、届出の提出を受け、必要時に指導している。当学院の特徴でもある国際性については、夏季休業中に短期研修という形で韓国の看護大学と教育連携を行っているが、ここ数年はコロナ禍で中止している。	・古賀「国際」看護学院の名にふさわしい国際交流を今後考えていただきたい。
・防災に対する体制は整備されているか	3.5	防災に関する組織を整備し、適切に運用している。学生便覧に防火管理規定を定め、防火訓練、防災訓練を年に1回実施している。地元の消防署で指導を受けた防災担当職員が、防災グッズの点検をはじめ職員に防災意識を植え付けるべく努力している。	・適正に評価されている。今後様々な(Jアラート等も含め)防災に向けてより一層の体制づくりを望む。

①課題

・設備としては不十分などところがあるため、モデル等を取り入れ、シミュレーションを通して、臨床判断能力につなげていけるよう、レベルアップを図る必要がある。

(7)学生の受入れ募集

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	3.7	高校が主催するガイダンスへの参加、筑後地方を中心とした高校訪問(年2回)、オープンキャンパスや学院説明会の開催、HPの充実やインスタグラムなど、あらゆる方法を駆使して募集活動を行った結果、志願者の大幅増につながった。	・高校進路指導協議会が提唱する「10月1日以降の受付」に関しても、十分な説明を行い、理解を得ることができたと聞いている。適正に評価されている。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5	国家試験の合格率や卒業生の就職先、ボランティア活動の内容等、誰もが同じ情報を正確に伝えることができるよう、職員間で情報を共有している。	・適正に評価されている。
・学納金は妥当なものとなっているか	3.7	学校紹介パンフレットに学納金の内訳も含め掲載し、大学4年間でかかる費用との比較も行うことで妥当性を明確にしている。加えて、奨学金制度についても詳しく説明している。	・適正に評価されている。

(8)財務

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	特に問題はない。	・適正に評価されている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.0	予算・収支計画は問題はない。学院ではペーパーレス化、省エネ等に取り組んでおり、無駄をなくす意識を常に持って業務に従事している。	
・教務について会計監査が適正に行われているか	3.5	適正に行われている。	
・財務情報公開の体制整備はできているか	3.3	本部との連携のもと、定期的に情報公開されており、体制は整っている。	

(9)法令等の遵守

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.6	国や県、関係機関の指導に従い、法令の遵守と適正な運営がなされている。	
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.8	学生には学生便覧に個人情報保護規定を設け、教職員には設置法人の規定を設けている。実習時には施設に「個人情報保護の誓約書」を提出している。入試関係の書類等は、インターネットに繋がらないPCで作業・管理している。焼却処分の必要なものは、まとめて廃棄(焼却)している。	・学生の個人情報に関しては、同意書を取るとともに、期間を決めて古いものから削除していく方法も取られており、十分評価できる。
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.4	実施はしているが、PDCAサイクルを回すまでには至っていない。	・今後更なる充実を望む。
・自己評価結果を公開しているか	3.0	HP上に公開している。	・適正に評価されている。

①課題

- ・自己評価については月単位や週単位で行うようにしていったほうが良いのではないか。

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1	設置母体の職員に対して、申し出があった場合、図書の利用や文献のWeb検索の便宜を図っている。学院祭やボランティア活動時には実施可能な血圧測定等計画し、知識技術の提供を行っている。	・適正に評価されている。
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.5	他団体からの要請を受けて募集に応じたり、学生自ら自主的に参加して活動する形など様々な形で実施している。月に一度は宮ノ陣地区ビジネスパーク内のボランティア清掃も行っている。学院としても看護職を目指す学生の成長につながるものとして積極的に支援している。	・ボランティアをする者、される者、お互いにとってWIN－WINの関係となるよう、ボランティアの意義や目的について今後も丁寧に指導していただきたい。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公立職業訓練を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2.8	地域の高校から性教育講座の講師派遣などの要請があり、積極的に実施している。	・適正に評価されている。

①課題

・ボランティア活動については積極的に活動できるようにしている。

(11)国際交流(必要に応じて)

評価項目	平均	自己評価	学校関係者評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3.0	ほぼ毎年、留学生の受け入れを行っており、適正受入校として認定もされている。韓国の建陽大学校看護学生と短期研修で行き来している。	・適正に評価されている。
・受入れ・派遣、在留管理等において適切な手続き等がとられているか	3.3	適切に処理されており、上記のように、「適正校」として承認されている。	・適正に評価されている。
・学習効果が国内外で評価される取組を行っているか	2.3	国内的には国家試験合格率等により一種の評価が行われていると言える。今後、建陽大学との連携を強めることで国外的な評価が実施されるものと思われる。	・自己評価にあるように、今後は国外での連携を深めていくことを望む。
・学内で適切な体制が整備されているか	2.8	現時点では体制作りはなされていない。今後組織として確立させていく必要がある。	・組織として体制づくりをしていく必要がある。

4 評価結果のまとめ

令和4年度は、学院組織体制の変更により様々な面で新たな組織作りを行う必要があり、取り組みが整理されていない面があった。しかしその中でも、新カリキュラムの実施や、並行してデジタル教科書の使用等、綿密丁寧な準備のもと、説明責任を果たしながら実施することができた。国家試験の合格率に関しては残念な結果となったが、きちんと検証を行った上で指導の改善に生かすことが肝要である。令和5年度に関しては組織改編を行い、新体制にて学院教育活動が行われる予定であり、「(2) 学校運営」の弱点と思われる項目は改善される見込みである。

自己評価に関しても、これまで組織的に行えていなかったものを再構築して学院全体として取り組む予定であり、これと関連して「学校関係者委員会」も本格的に開催予定である。

学生のキャリア形成や、高校・専修学校等との連携については、現在あまり取り組まれていないこととして評価も低いですが、これに関しても令和5年度、元県立高校校長の職にあったものが総括副学院長として勤務することとなっており、連携が進むものと思われる。

国際交流に関しては、「古賀国際看護学院」との名称であることを鑑み、今後積極的な取り組みをしていくことが重要である。現在学院に在籍している外国籍の学生は2名であるが、今後増加するものと思われる。韓国建陽大学との交流についても、コロナ禍終息に伴いこれまで以上に交流を深めていく必要があると思われる。

令和5年度は、コロナ禍により中止されていた種々の教育活動が再開される予定であり、それとともに教員の自己研修の機運も高まっている。自主的な学習会の計画も進んでおり、教育水準の上昇が期待される状況となっている。